

あとがき

平成21年4月から新しい学習指導要領の移行期間に入りました。各学校においては、新しい学習指導要領の理念である「生きる力」の実現に向け、具体化を図る手立てとして、各教科等の指導内容の確認と授業時数の見直し、思考力・判断力・表現力等を育成するための授業改善等の取組が一步一步着実に進められています。また、総則、道徳、特別活動、総合的な学習の時間については先行実施がなされ、平成23年度から小学校5・6年生に新設される「小学校外国語活動」についても、本地域の全ての学校で先行実施されております。

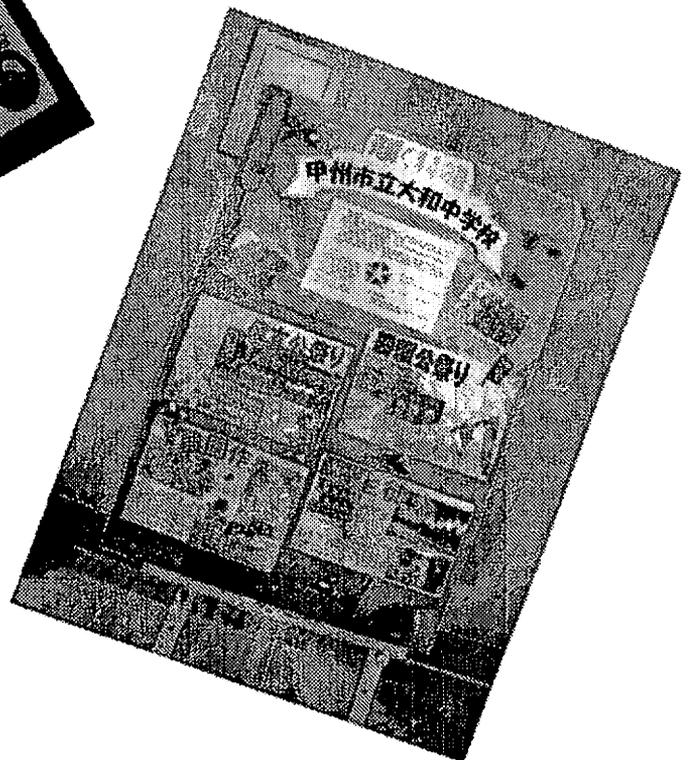
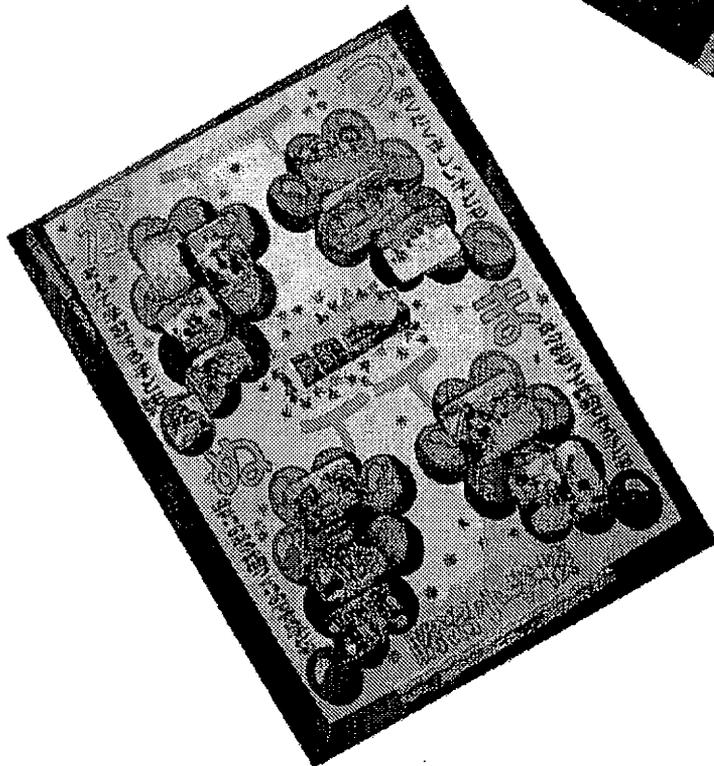
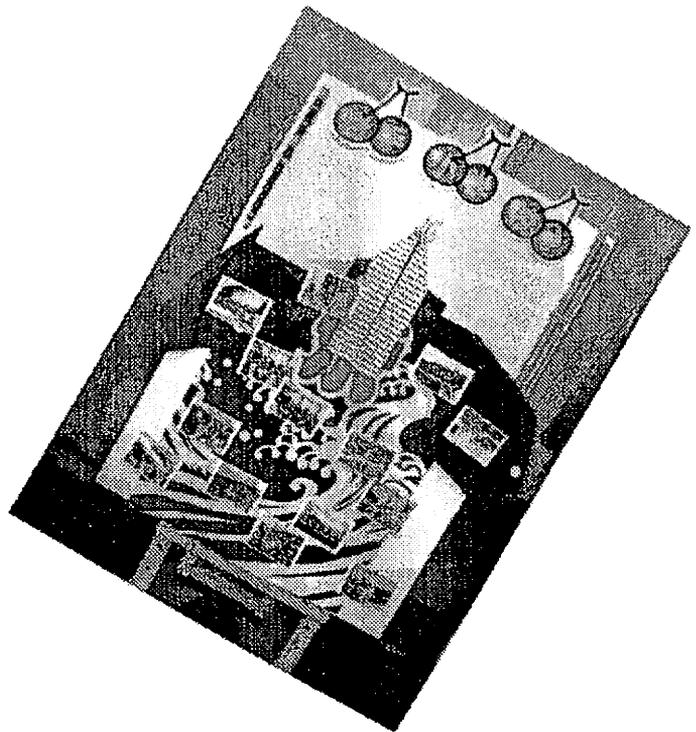
中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」（平成20年1月17日、以下「答申」）では、言語活動の充実が、新しい学習指導要領の改善事項の第一に掲げられました。「答申」では、今日求められる学力ー「生きる力」の重要な要素として、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等、③学習意欲の3点を提示し、さらに、思考力・判断力・表現力等を育成する学習活動の基盤となるものを「数式などを含む広い意味での言語」ととらえ、この「言語の能力」を高めることが、思考力・判断力・表現力等を効果的に高めることになるとしています。また、言語の役割は、○「子どもたちの思考力・判断力・表現力」（＝知的活動（論理や思考）の基盤）、○「子どもたちが他者や社会とかわる上でも必要な力」（＝コミュニケーションや感性・情緒の基盤）の2側面にとらえています。本地域の公開研究会・校内研究会等においても、国語科をはじめ各教科等でどのように言語活動を取り入れていくか、言語活動の充実を図っていくかに視点をあてた実践を数多く見させていただきました。実践から、言語活動の充実を図るには、各教科等がはぐくむ思考力や判断力、表現力等がどのようなものであるかをきちんと確かめる、子どもの学びがいのもてる教材や題材をもとに発問や課題を吟味する、そして、話し方や聞き方、話合いの仕方、書き方、読み方に加えて、考え方やとらえ方、表現の仕方などの技能や技術の基礎・基本を身に付けさせることが大切であると、改めて学ばせていただきました。また、特に印象的だったことは、どの実践も目の前の子どもたちをきちんと見つめて取り組まれていたことです。子どもたちの現状をきちんと把握し、このような子どもに育てほしい、そのためにはこの言語活動をここに位置付けて授業を構想するといった、基本的なコンセプトがしっかりと伝わってきました。外国語活動の研究大会に参加したおりも、指導・助言者が講評の結びに「各学校においては、目の前の子どもたちに合った外国語活動をクリエイトしてほしい。」と述べられました。平成23年度（中学校では平成24年度）から、新しい学習指導要領が全面実施されますが、目の前にいる子どもたちと向かい合った研究や実践を積み重ねていくことの大切さを改めて確認し合いたいと考えます。

終わりにになりましたが、「東山梨教育研究第48号」の発刊にあたり、お忙しい折に玉稿を賜りました甲州市教育委員長様、並びに東山梨教育協議会長様をはじめ、貴重な原稿を寄せられた諸先生方、各紙教育委員会の財政面でのご援助に対し心より感謝申し上げます。なお、本冊子の表紙は教育協議会「図工・美術部会」の廣瀬きよ美先生（「楽しい海の底」 加納岩小学校4年 丸山みきさん作）をお願いいたしました。ご協力ありがとうございました。

【編集委員】

山梨市教育委員会教育長	堀内 邦満
甲州市教育委員会教育長	古屋 正吾
峡東教育事務所副所長	澤田 隆雄
峡東教育事務所指導主事	小林 俊彦
東山梨教育協議会事務局次長	久保田英樹
東山梨教育協議会研究推進委員長	中村 英彦
山梨支会研究推進委員長	志村 克人
山梨支会研究推進副委員長	齊藤 和裕
甲州支会研究推進委員長	金井 巖
甲州支会研究推進副委員長	三枝 敏明

発行日	平成22年4月5日
発行責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会
編集責任者	東山梨教育研究 編集実行委員会事務局
印刷所	昭和堂印刷



各校作成のパネルの一部です。
学校紹介の中にもそれぞれの学校の
『こだわり』が感じられます。